

# 平成31(令和元)年度 駒本小学校学校経営方針

文京区立駒本小学校

校長 吉岡 淳

## 1 学校経営の基本理念と重点目標

### 愛と熱と力の駒本 どの子ども伸ばす、駒本の教育

「愛と熱と力の駒本」を学校経営の基本理念とし、開校65年の歴史と伝統に支えられた駒本小学校の教育の充実及び、今年度改訂した教育目標の実現を目指す。駒本インクルーシブ教育システムのさらなる充実を目指し、「どの子ども伸ばす、駒本の教育」を重点目標とし、すべての教育活動を推進する。

東京都プログラミング教育推進校として昨年度の研究で開発した、児童の論理的思考力を育成する様々な指導方法を基盤とし、さらなる指導方法の工夫、それを効果的に実施するためのカリキュラム・マネジメントに努め、「論理的に思考し、表現できる児童の育成」を目指す。また、プログラミング教育の単元開発を進め、都内・区内に広く発信する。

## 2 本校の教育目標

自他共に大切にできる人間尊重の精神と深い愛情に基づき、自主的精神に立った高い志をもち、困難なことにも果敢に取り組んでいく力を備えた児童を育成するため、次の教育目標を掲げる。

- (1) **豊かな心** 自他共に大切にできる豊かな心と愛情の育成
- (2) **高い志** 高い志と、困難に打ち克つ熱意の育成
- (3) **確かな力** たくましい心身と、将来に向けた学力の育成

### (1) 「豊かな心」について

自尊感情、自己肯定感、思いやりの心を育むことで自他共に大切にできる態度を身に付けさせるとともに、自分の回りの生命やものに対する慈しみの心を育てる。

### (2) 「高い志」について

将来に向けた高い志をもち、夢や希望を掲げ、その実現に向けて地道な努力を積み重ねることができ、困難な状況にあっても挫けることなく挑戦していきけるたくましい意志や責任感を育てる。

### (3) 「確かな力」について

基礎・基本を確実に習得させ、論理的思考力、判断力、表現力、問題解決能力を身に付けさせる。そのために、駒本授業スタイル（授業のユニバーサルデザイン化、個に応じた支援）を全教員が確実に身に付けるとともに、プログラミング教育にも積極的に取り組む。

また、生涯体育の観点から、自らの健康や体力に関心をもち、健康の増進や体力向上に積極的、日常的に取り組むことができる態度や実践力を育てる。

### 3 学校経営の基本方針

教育理念「愛と熱と力の駒本」の下、「どの子ども伸ばす、駒本の教育」の実現に向けて、以下の3点を学校経営の基本方針とする。

#### (1) 一人一人を大切にしたい、人権教育の徹底

人権尊重の立場に立ち、自己を大切にしたい、他者も大切にできる子どもたちを育むため、児童に寄り添う指導を積み重ね、児童の自尊心・自己肯定感を高める。そのため、教師自らが人権尊重の精神に立脚した、一人一人を大切にしたい教育活動を徹底する。

大切にしたいとは、「守ることで大切にしたい。」「育むことで大切にしたい。」の2つの取組である。「人権」「学力」「心」「体力」「健康」「安全」の6側面から、守るといふ視点と育むといふ視点から具体策を実施し、一人一人を大切にしたい教育活動を展開する。

子どもたちの自己肯定感を高め、「どんな顔で登校してきて、笑顔で迎えて、笑顔にして帰す」ことを日々の指導の目標とする。

#### (2) 体力・学力の向上

児童の学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図り、論理的思考力の育成を中心とした学力を向上させるために、授業改善・授業力の向上に努めるとともに、指導と評価と支援の一体化に努め、児童一人一人に応じた学習支援に努める。そのため、授業のユニバーサルデザイン化、個に応じた支援を確実に実施する。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を実施する。

東京都プログラミング教育推進校としての研究の2年目として、推進校の役割を果たし、その成果を積極的に発信する。そのため、全教員の授業力向上を最重要課題として位置付け具体的な方策に取り組む。

学習発表会において日々の学習成果を広く発表することで、論理的思考力・判断力・表現力、問題解決能力の向上を重点的に図る。そのため、全教科の年間指導計画に学習発表会に向けた取組を組み入れ、教員一人一人のカリキュラム・マネジメント力を高める方策を実施する。

児童の体力向上を図るために、全教育活動における取組を推進する。「駒本タイム」を活用し、休み時間での遊びの充実と運動の日常化を図る。また、年間1回スポーツテストを実施し、体力の向上を客観的に捉えるとともに、外部機関とも連携してスポーツテストのデータを有効に活用した体育授業の改善を行う。

#### (3) 組織的運営に基づいた学校力の向上

自己啓発・相互啓発による人材育成をOJTとして実施する。また、組織的な学校運営を実施し、全教職員の資質・能力の向上を図り、学校の問題解決能力である「学校力」の向上を目指す。全教職員で積極的にスクラップアンドビルドの精神を基盤とし、業務の効率化による校務改善に取り組み、従前の働き方を見直し、子どもたちに向き合うための時間の増加を目指す。

外部連携を組織的に推進することで、指導の効果を高めるとともに、教員一人一人のカリキュラム・マネジメント能力や外部折衝力の向上を図る。